

道博協ニュース

第28号

発行所 平成元年9月30日
北海道博物館協会
事務局 札幌市白石区厚別町小野幌
北海道開拓記念館内
電話 011-(898)-0456

第28回全道博物館大会終る

平成元年度の北海道博物館大会は、去る七月五・六日の両日、帯広市のステーションホテルにおいて開催されました。今年度の大会テーマは「生涯学習における博物館の役割」であり、昨年の全国博物館大会（11月10・11日、於宇都宮市）のテーマ「生涯学習と博物館」に引き継いで、北海道の博物館・園でさらに発展させようという試みもあつた。の設置でした。

帯広市における道博協大会は、昭和41年以来、23年ぶりのこと、そのためもあつたか、全道から130名の参加があり、これまでになく盛り上つた大会でした。

大会第一日目は、9時30分から開会式が行われ、地元小片英義帯広百年記念館長の司会によって進められました。

十時からは、「日本における博物館の現状と課題」と題す

る、日本博物館協会毛利正夫専務理事の近年における生涯学習と博物館のかかわりについて報告され、続いて十一時から十二時三十分まで「十勝岳の噴火と火山災害」と題する講演を帯広畜産大学近堂祐弘教授から聞き午前の部を終了しました。

昼食のあと十三時三十分より十七時近くまで、「生涯学習における博物館の役割」というテーマシンポジウムが行われました。

司会者は都合によって出席できなかった澤田四郎氏にかわつて、苫小牧市博物館佐藤一夫副館長が進行をつとめ、助言者としては道教育研究所社会教育研究室藤井武室長、道博協米村哲英理事があつたりました。

提言者は「動物園と生涯教育」と題する中村悟おびひろ動物園長、「地方博物館と生涯学習」金盛典夫斜里町知床博

物館長、「女子短大生がみた博物館施設」静修短期大学北川芳男教授らの、それぞれの実践をふまえた提言がなされ、それらに基づいて活発な議論が展開されました。これらについては、現在、編集中の大会報告書に収録される予定です。そのあと、学芸職員部会が部会員によって開かれ平成元年度の事業や新役員について審議がなされました。これが終わったあとの懇親会は、十勝の味覚や銘酒が沢山出て、盛会裏に終了しました。

第二日目は、九時から十分まで、平成元年度総会が開かれ、昭和63年度事業報告、決算報告及び監査報告がなされ共に承認。また平成元年度事業計画案及び予算案、そして二年ぶりの役員改選も無事可決することができました。

さらに第29回大会は道南の江差町において開催されることが決定されました。閉会式のあと地元の佐藤孝則・北沢実両学芸員により帯広百年記念館、おびひろ動物園ほか緑ヶ丘公園の主要な施設を見学

し、二日間の日程を無事おこなうことができました。地元帯広の実行委員会の皆様には心からお礼を申し上げます。

(事務局)



第28回 北海道博物館大会

大飼哲夫名誉会長の訃
元北海道博物館協会会長
(元道開拓記念館長)で動物
生態学の世界的権威であつた
大飼名誉会長が、七月三十一
日午後二時五十八分、肺炎の
ため東京都杉並病院で逝去さ
れました。謹んでご冥福をお
祈りいたします。

第二十八回北海道博物館大会に参加して

第28回目を迎えた北海道博物館大会は、帯広市で開催された。

前年、学芸員部会の研修会

教育計画研究室長と米村道博協理事のコメントがあり、その後全体の質疑を行うといった順で進化した。

には参加したものの、全道規模のこういった大会には初めて出席するため、駆け出し者の私にとっては、始めのうち何か気後れするような感じが落ち着かなかつたが、さすがに同業者？の集まりだけあって、近隣の館関係者など顔見知りの人もいたため、挨拶など交わしているうちにどうやら会場の雰囲気にも慣れることができた。

めなままに終わってしまいがちになるといふことも理由の一つとして考えられよう。あえて野次馬の観点からの発想が許されるならば、丁丁発止の論戦が繰り広げられるほうが面白いことは確かであるので、例えば、異なった立場のパネルディスカッションなどの趣向を取り入れることができたらと思うのだが（司会者は大変だろうけど）。

シンプジウムは最後に、開拓記念館の紺谷氏から、それぞれの館の情報をデータベース化するシステムを構築し、情報のネットワーク化を押し進める必要性に関して提言があった。

確かに将来的にそのような方向に向かうことは、必然的なことであろう。そのためには、各館ごとのデータベースを構築する際に共通のフォーマットが当然要求されてくるはずであるし、そうしたシステムの構築に関しては、道博協のような組織が中心となるべく期待されてもくることにならう。

開会式の後に毛利日博協専務理事の特別報告、近堂帯広畜産大学教授の講演があり、その後昼食を挟んで、午後からは「生涯学習における博物館の役割」をテーマとしたシンプジウムが行われた。

シンプジウムは中村おびひろ動物園長、金盛知床博物館長、北川静修短期大学教授の三氏による提言の後、助言者である藤井道教育研究所社会

しかし現実をみると、その段階まで到達するためには、多くのクリアすべき問題が前途に横たわっていると云わざるを得ない。

たえば、ネットワークの例にあげられた道内の図書館の場合には、図書を分類整理し、館運営に中心的な役割を果たしている司書が、ほとんどの館にいないと思われる。しかし、道内の、特に資料館と銘打たれている所では、資料を分類整理するのに中心的役割を果たすべき学芸員のいないところもまだまだ多いのではないだろうか。こうした館相互間の格差の問題もその一つに数えられよう。

このように感じるのも、何かこの形式自体に、その原因があるのではないだろうか。たとえば、形式的な制約からか、話がどうしても公式見解的なところでまわってしまっている、今一歩核心部まで踏み込

一方、我が館の実態を振り返るならば、恥ずかしながらわれわれの力不足もあらうが、収蔵資料の整理も遅れがちであり、データベース作成のためには、人も、金も、時間も足りないといったところが現実である。

以上ながながと散漫な感想を記してきたが、最後に、大会全般の印象としては、良く組織化された手際良い運営であったと思われた。帯広百年記念館の皆様を始めとする裏方にまわった人達の努力に敬意を表したい。

（美幌博物館 学芸員 荒生健志）

このような現状では、当然の問いろいろな情報を入手す

このような現状では、当然の問いろいろな情報を入手す

このような現状では、当然の問いろいろな情報を入手す

このような現状では、当然の問いろいろな情報を入手す

北海道青少年科学館職員研修会について

一 北海道青少年科学館職員研修会の歩み

昭和38年、北海道に青少年科学館が4館建設されたのを契機に、相互の連絡・情報交換・協力を図るため、早々に北海道青少年科学館協議会が設立された。当時の全国的な博物館、特に理工系博物館の相互の情報交換の場は全くなく、全国科学博物館協議会の誕生が昭和46年7月であることを見ても、いかに道内の科学館を運営する人々が、山積する課題を解決するため、英知を結集し努力しようとしたかが伺える。

この協議会の設立時は、館長のみで主に展示品についての情報交換が主であったようだが、施設の運営の最大のもは「人」との認識から、各館に勤務する職員の資質向上を目的に早くも昭和41年2月、帯広市児童館を会場

に第一回の職員研修会が開催され今年まで連続として継続され、25回を数えている訳である。

二 職員研修会のテーマについて

昭和44年までは加盟館が5館ということと、施設規模・運営方法とも共通する部分が多いため、研修会は基調講演が2時間、展示関係とプラネタリウム関係の分科会あり、それぞれ2〜3時間程度の時間で、各館の事例発表をもとに参加者全員による熱心な討議が行われていた。

45年に苫小牧市、49年稚内市、更に56年札幌市、59年北見市と加盟館が増加したこと

から参加人員も大巾に増え、彼らの分科会による討議が日程上、困難となってきたことから、事前に各館に事例発表のテーマを決めて頂き、研修会当日はその発表に従って研修を行う方法に変わって来た。

近年は自治体の財政事情の悪化に伴い、研修参加旅費にまでも切りつめられ、参加人員も減少の傾向にあるところから特に一定のスタイルは定めず、開催館の独自性で開催されるようになって来た。

そのなかで従来は自らが体験するといった部分が少なかった点を反省し、研修参加者が工作、加工するといった実際の研修が加ったことが特色かとも云える。25回の研修を通じて、最多のテーマは「科学館のあり方」、「展示品の製作と保守」、「プラネタリウム投影方法」であり、時代は移り変わっても、科学館に勤務する職員すべてに常に共通に追求すべきテーマであるようだ。

三 今年度の研修

会について

8月24〜25日、道内11(今年度より厚岸町海事記念館が加盟)の市・町の科学館から26名、更に関連業界から3名の参加を得て室蘭市で開催された。

24日の日程は10時より「情報の収集について」(室蘭グリックロス田中伸幸社長) 2時間の講演があり、昼食時も利用して最近の関連業界の動向が紹介され、12時30分より各館の展示・プラネタリウム・実験室・普及活動・行事についての現状と問題点が提起されて話し合われた。

各館ともに「子どもだけでなく大人も楽しめる科学館」、「科学への興味をどのように動機づけするか」に腐心している様子が紹介された。こうした話し合いが各館の実情に合わせて検討され、よりよい形で消化され取り入れられている次第だから、研修会の開催目的はここに中心がある。もっともこの公式の場合だけでは時間が不十分で、夜の非公式の部にも話し合いは継続するのが常のようである。午後



2時より6時までは視察研修という日程で室蘭の基幹産業である鉄鋼を中心に、先端産業として進出した精密金型、光学人工水晶等の工場を見学した。

25日は9時〜11時まで室蘭岳高原を中心として「室蘭の生物相」(日本野鳥の会室蘭本多支部長)の視察が行なわれ2日間の日程が終了した。今年度は話し合いの時間が充分でなく、参加された方々も不満であったかと反省している。また、性格の異なる館もあるため、テーマも検討すること

が今後必要であろう。

(北海道青少年科学館連絡協議会 会長 宮森健一)

(室蘭市青少年科学館)



学芸職員研修会に 参加して

平成元年度の学芸職員研修会は、9月13日・14日の両日すばらしい秋晴れの下、穂別町立博物館において開催された。今回は「地方都市と博物館のあり方」がテーマで、穂別の化石を利用した町づくり・博物館づくりを中心に研修が行われた。学芸員一年生として初参加した者が感じた事を率直に述べていきたいと思う。

まず、協議に入る前に参加者の紹介あるいは名札の着用の必要性を感じた。ベテランの方々は別にしても、私のような初参加組は周囲におられる方が誰だかわからず、緊張感が先立ちなごやかな意見交換とはいかない。学芸員あるいは博物館同志の交流が叫ばれる中、研修会の最初にそのチャンスが作られるべきである。では次に、協議の内容についての会の進行に従って簡単にまとめていきたいと思う。

では、「クビナガリユウの発見から博物館建設まで」と題して、昭和52年の化石発見から同57年の博物館開館当時、教育長として打ち込まれた今幸太郎館長が講師であった。地方における博物館建設という難題に取り組み、幾多の苦難を乗り越え完成に至るまでの経緯を、細かい具体例とユーモアたっぷりの話を交えた講演には非常に説得力があった。資金も人材も少ない地方都市で、内容の充実した博物館を作るという難題を「行政水準Ⅱ文化水準」という一貫した信念をもち、克服されてきた関係者の姿勢と、さらに良いものにしてしようとする前向きな態度には大変考えさせられるものがあり、博物館に対する愛着の深さが感じられた。

【研究協議Ⅰ】では、静修短期大学の北川芳男教授により「ドラムヘラーとティレル古生博物館」と題して、カナダ・アルバータ州の古生博物館の紹介が行われた。初めに博物館建設までの経緯について簡単な説明があり、スライドによる紹介へと移った。ドラムヘラーの町は石炭産業の衰退と、過疎化に対する町おこし対策に恐竜化石と博物館を利用した点で、穂別町あるいは北海道と良く似た環境下にあり興味をひいた。地方都市において町を活性化する手段として博物館がどのような役割を担うことができるのか、穂別町とカナダの例から、結局はそこに携さわる人間がどれだけしっかりとした目的意識を持っているかに大きく左右されることを改めて知らされた。

この夜の交流会は、これぞ研修会の本(っ)とも言えるもので、普段なかなか顔を合わせる機会のない学芸職員同志が少々のアルコールの助けを得て、それぞれのかかえる様々な問題について親しく語り合い、私のような初参加者にとつては特に有意義な場であった。

二日目の【研究協議Ⅲ】では、穂別町都市計画課の小野寺昭徳課長より「進化的道計画について」と題して、「化石の里」構想の経緯が種々の問題と具体的な解決策、および今後の計画と共に説明された。町を貫く道路の拡張に伴い、約1・1kmの区間を進化的道として整備し、歩道を順に歩くだけで地球の誕生から人類の誕生、穂別の町が理解できるといふもので、都市計画においても重要な位置を占める大プロジェクトである。この町の将来をかけた計画に携わる氏の話には熱意と真剣な姿勢がひしひしと感じられた。

【研究協議Ⅳ】では「穂別町の自然の教材化について」と題して、穂別中学校の村上隆教諭の講演があった。授業に地域の素材を取り入れ、多くの実体験により理解を深め、道は博物館が協力しなければいけない。その上でこそ博物館のレベルアップが可能になると思う。

最後に、二日間にわたる研修会に対して、万全の運営をされた穂別町立博物館、穂別町教育委員会の方々には、心からお礼を申し述べたい。(財団法人 北海道開拓の村 学芸員 遠藤昭浩)

O A 機器の利用 ①

博物館における

録音資料の整理について

静内町郷土館

学芸員 古原敏弘

静内町では昭和57年に「静内町アイヌ民俗資料館」の建設を開始するとともに、アイヌ文化に関する資料の収集を開始した。

当初は民具資料の収集を行い、開館後は伝承者である織田ステノ嬢に伝承する民具の作製を依頼し、その作製過程の記録から始まり、生活文化に関する伝承、さらには口承文芸の聞き取り調査を行い、現在では約200本の録音テープが所蔵されている。録音時間は約300時間である。

ところが、当初は聞き取り調査時のメモや記憶などでも、展示の解説や説明に利用できたが、聞き取り調査の記録の増加とともに、確認作業や、

すでに聞き取りの終了したことを、再度聞くなど、高齢の伝承者に余計な負担をかけてしまうということが、度々起きてきた。また、後にテープを聞き直してみるとよくわからないことが随所であり、さらには、調査時点で不明の点が、テープを整理しないために、そのまま不明になっていることがあった。聞き取り調査記録の整理、つまりテープの整理を行わなければ無駄な調査を行い、不明点は不明のまま残されることになってしまいうことがわかった。また、録音テープに耐用年数もあり、録音から5年程度で録音状態は悪化し、半永久的に保存できるものではない。そこで、いい

織田ステノ聞き取り調査記録

テープNo: 01.02.SIDE A/B	: ページ:
ファイルNo: OS0102AB	A: 01-01: 小舅
録音年月日: A: 1983.07.19. (000-745) P: 01-19	: 01-03-ケロムン
: B: 1983.07.19. (000-000) P: 19-37	: 03-10: シキナ・カトゥンキ
録音機材: SONY TC-5000/SONY ECM-269	: 10-13: ミズバシヨウとザゼンソウ(バラキナ)
時間: 90 min.	: 13-13: ヌベ(?)
聞き手: 古原敏弘(K)	: 13-14: ケムトウイエキナ(クジャクシダ)
その他: DAT (02)	: 14-15: ヌベ
概要: 植物(葉草・木の実など)	: 15-17: シッカルムン(オカトラノウ)
	: 17-19: チマキナ(ウド)
	: 19-19: シッカルムン(オカトラノウ)
	: 19-19: ノヤ(ヨモギ)
	: 19-21: チマキナ(ウド) モセ(イラクサ)
	: 21-22: オイナマツ(ノブキ)
	: 22-23: エルムンキナ(オオバコ)
	: 23-23-ウッシ(漆) かぶれの呪い
	: 24-24: エルムンキナ(オオバコ)
	: 24-25: リテンムン(ハコベ)

録音状態のうちに整理しなければならぬと考え、録音テープの整理方法をいろいろと考えてみた。

当初、バインダーノートに日時・聞き取り調査の概要(テープレコーダーのカウンターを記入、ただし、カウンターの機器により異なる)をメモ的に書取るだけで始めた。しかし、口承文芸等の物語はどこにどのような話が録音されているかが明確になるだけでいい場合もあるが、民族調査では、話が一つの調査事項に始まり、他の話に展開する場合が多く、概要だけでは何が記録されているのか、情報不足になる場合が多い。

そこで、テープを文字化する作業を行うことにしたが、その場合も、聞き取り調査の内容を要約して文字化するのは、疑問点に関して再度テープを聞き直すことがしばしば起きたので、最終的な形としては、質問も解答も、録音されていることは全て文字化することとした。

録音テープの文字化作業に

060 Ker 履く時、こう抜いて
 Ker に履いた
 ワラ、昔ワラないから、ああいうやつで
 ワラだら、こう汗かけば、かくほど温い
 ワラは、こう、毎日履いていたら
 柔くなって、あったかいもんだ
 ワラ無いもんだから、ああやって
 keromun は別に刈って、刈っていないば
 huci itese する kina でも引張ってきて
 ker さこう入れれば
 ioisamka kina って huci は言うなんか
 (キナじゃ、なんか、ゴワゴワして。K)

(ケロムン、ケルムン? K)

keromun

(ケロムン。K)

ヤエちゃん

takuppe のくりある草なんだって

言うけど、違うもん

オラ覚えて、ちっちゃい時 huci

葉っぱは本当に kina にそのまま、間違うんだわ
 知らん人なら kina だって言うけど
 根っこが丸っこいの
 (フーン、根が丸い。K)
 kina は三角なってるから
 (うん、キナ三角だもね、あれね。俺もこの間抜いてみ
 て、初めてわかった。K)

だから、なんぼ草中になっても

こうやって見て、こう

一本一本、こうやって拾って、草中から

いいかげんなったら、こうやって引張って

素人なら草まま、こう刈ったら、もう

選るのにひとついめに合う

(そういうもんだもね、採る時にこれ、選んで採れば
 たいしたことないんだけど、後から選ぶったら大仕事に
 なるもんね。K)

ああ、大仕事、大仕事、とつても

素人なんか kina ca させたら、大変だ

(なんでも、刈っちゃうかい。K)

0080 うん

は、当初から将来的にはコン
 ピューターで活用できるデー
 タとすることを考慮し、パー
 ソナルコンピュータのワー
 プロソフトを使用した。
 録音の文字化の作業の前に
 テープ台帳となる、ファイル
 名称・録音日時等のデータを
 記入したページを作り、まと
 めると台帳が出来上がる形と
 した。概要は文字化したファ
 イルがあるので、そのページ
 を記入することとし録音テー
 プのカウンターは記入してい
 ない。(例1)

次にテープの文字化作業は、
 録音テープの大部分が日本語
 とアイヌ語の混じり合ったも
 のであるから、伝承者の話し
 たアイヌ語はアルファベット
 (小文字)で表記し、その他
 は漢字・ひらがな・カタカナ
 を用いた。伝承者の話しは、
 息継ぎのところで改行し、余
 白には注や必要に応じてテー
 プレコーダーのカウンター・
 行番号を書入れる。この作業

の段階までは、ワープロを使
 用する。この段階で重要な事
 項や言葉などにある種の区切
 り(デリミター)を設定する
 と後の作業となる索引の作成
 などが楽になる。現在はアイ
 ヌ語(小文字のアルファベッ
 ト)だけにデリミターを設定
 しているが、日本語でも(一)
 などの記号で区切るだけで後
 に抽出できる。(例2)

現在のパソコン用のワープロ
 ソフトはコンピュータの
 テキストファイルにできるの
 で、文字飾りなどを使用して
 もかまわないが、現在は全く
 使用していない。

これらのデータをコンピュータ
 ータで処理し索引等を作成
 し必要なデータを取り出しや
 すくするソフトが市販されて
 いるわけではないので、アイヌ
 語の研究者の協力を得て、研
 究者がアイヌ語の索引作成な
 どに使用しているソフトをそ
 のまま使用させてもらった。

また、録音されているアイヌ
 語についても確認を行っても
 らっている。

試行錯誤を繰り返しながら
 作業に着手したが、このよう
 な整理方法が決ったのが最近
 であり、整理の終了した録音
 資料数が少ないので、どの程
 度利用できるデータがとり
 だせるか結果はまだ出ていな
 い。しかし、録音資料は文字化
 されなければ資料として利用
 が限られ、さらに、録音された
 記録はテープの状態では、早
 晩、音の劣化は避けられない。
 そのためにも早急に整理し、
 伝承者に内容の確認をしても
 らい、よりよい資料とするこ
 とが、語ってくれた伝承者に
 対する礼儀であり、採録者の
 責任であろう。

なお、当館ではカセットテ
 ープで録音した資料は整理が
 終りしたいDAT(デジタル
 オーディオテープ)にダビン
 グし長期の保存に耐えうる資
 料としている。

館 園 紹 介

標津町ポー川史跡自然公園

標津町ポー川史跡自然公園は、昭和五十四年、標津町開町百年を記念して着手したもので、「先史文化の歴史と自然」を採勝していただく自然公園である。

昭和五十五年より一般公開し、毎年多くの入園者の来訪を受け、年ごとにその数が増加している。

本園の特色は、なんとと言ってもそのスケールの大きさにある。それらの特徴を説明すると、



◎天然記念物 標津湿原

昭和五十四年に、面積八〇七、〇六五㎡(約八〇ha)が指定されたこの湿原は、約六、〇〇〇年前の縄文海進に起源をもち、海進性の砂丘形成によって、丘陵と砂丘間の凹地に泥炭の形成が進んで、縄文時代の終り頃、現在のような湿原となった。

湿原の西側に、ポー川という川があり、ポー川の右岸に形成された高層湿原域を中心に、中間湿原、低層湿原、そして、ポー川楔水林とあるが高層湿原域の割合が多く、千島列島へと続く植物帯で、チヤミズゴケを主とするブルト

が発達し、台地状になっている点特徴づけられる。

植物群としては、エゾゴゼンタチバナ、ガンコウラン、コケモモ、ツルコケモモ、ヒメシヤクナゲ、エゾイツツツジなどがある。

湿原のほぼ中央に、約七五〇mの木道を設置し、湿原の保護をしながら、参観者に十分観賞し、学習をしていただくようにになっている。

◎標津遺跡群

◎伊茶仁カリカリウス遺跡 昭和五十四年に、面積三、六九六、九五三㎡(約三七〇ha)が指定されている。

標高二〇mほどの平坦な台地状にあり、ミズナラ、ハルニレ、シラカバ、センノキなどを主とした広葉樹林に被われている。

ここは、縄文時代(約八、〇〇〇年前)から、擦文時代(約七五〇年前)までの堅穴住居跡、墓、アイヌ時代のチャシ跡が残されている。

堅穴住居跡は、約一、二〇〇が六群に分かれ、はつきりと凹んだまま残されている。そのうち、六軒を発掘調査し、二軒を完全に復元、四軒について住居跡の原型を露出させ、堅穴の構造や、当時の生活の様子を、見てわかるようにしている。

◎三本木遺跡 海岸砂丘上にあつて、標高三mほどの砂丘南斜面に、堅穴住居跡二十一が凹んだまま見られる。

この堅穴住居跡は、樺太方面から六世紀ごろ渡ってきたオホーツク文化の遺跡であり下層には、縄文時代末期の文化層が重複している。

◎古道遺跡 標津川河口から四km上流の標津川左岸にあり、標高八mの段丘上にある。擦文時代の堅穴住居跡一五七と、チャシ一基が存在する。

根室標津より西に二km離れた国道二四四号線ぞいにある本園の入口には、本町が本格的に開発された明治十二年(一八七九年)、きびしい北国での雪や、寒さや、原始林とたたかった祖先の生活をしのぶ「開拓の村」を再現している。その中には、開拓当時の農家、納屋、漁家、学校などを復元し、当時の生活に使用したいろいろな資料を展示している。

また、外観を、先史時代堅穴住居の屋根型をモチーフにした「歴史民俗資料館」を建て、その内部には、標津町一〇〇年の歩みを目で見るパネルや、実物を展示し、歴史の歩みを知るための資料としてある。

なお、カリカリウス堅穴住居あとから出土した遺物で、土器などで復元可能なものについては復元をし、その他の出土品についても展示をし、わかりやすい説明をつけてある。

湿原の植物についても、春の花、秋の実などを写真で紹介し、けもの、野鳥類については、数こそ少ないがはく製にして展示してある。

このような建物の周辺には原生林の巨木で、約一千年をも数える樹令の、ミズナラ、イチイ(オンコ)ハルニレな

などを植え、原生林の面影をし
のぼせている。

また、一千年前と、三千年
前の堅穴住居を復元し、見学
の場に供している。

行事としては、春と、秋の
二回「ポー川祭り」として、
昔の食べ物を提供し、子ども
達には昔の遊びを教えたり、
楽しい場づくりをし、また、
広く希望をつのり遺跡の体験
発掘を年二回実施している。

新役員の紹介

七月八日の北海道博物館協
会総会で次の新役員が選出さ
れました。

名誉会長、犬飼哲夫（日本
博物館協会顧問）顧問、中川
敏（前道博協会会長、工藤欣也
（道立三岸好太郎美術館長）、
会長、渡邊左武郎（道開拓記
念館長）、副会長、近間郁雄（道
立近代美術館副館長）、澤四郎
（釧路市立博物館長）、金子民
男（市立旭川郷土博物館長）、
山丸武雄（アイヌ民族博物館
長）、理事、青木隆夫（夕張市
石炭博物館長）、木村繁（市立
函館博物館長）、金田寿夫（札

幌市立円山動物園長）、白井哲
（札幌市青少年科学館副館長）

木内和博（優良良織工芸館長）、
北川芳男（個） 静修短期大学
教授、黒崎康雄（個）（浦河町
郷土博物館協議会長）、佐藤一
夫（学）（苫小牧市博物館副館
長）、高井隆夫（小樽市博物館
長）、矢野牧夫（道開拓記念館
学芸部長）、金盛典夫（学）

（斜里町立知床博物館長）、大
原利夫（北網圏北見文化セン
ター館長）、小片英義（帯広百
年記念館長）、米村哲英（個）
（網走市文化専門委員）、監事
阿部要介（道開拓記念館友の
会専務理事）、脇靖彦（室蘭市
民俗資料館長）以上二十四名。
（（個）は個人会員、（学）は
学芸職員部会選出）

全国博物館大会のご案内

（財）日本博物館協会主催
の標記大会が開催されます。

期日、平成元年十一月九日
（木）、十日（金）

会場 名古屋市科学館、電
気文化会館、名古屋市
美術館他
テーマ「生涯学習と博物館

—その発展のための
現状と問題点—

事務局日誌

6・8 道博協大会開催地負
担金帯広市長に申請

6・12 （財）道社会教育協
会主催の社教関係団体連絡
会議（事務局局長出席）

6・19 道教委の道博協大会
補助金決定（二十万円）

7・5・6 道博協帯広大会
開催される。

7・28 平成2年度第30回社
会教育全国集会の後援依頼、
（於 斜里町宇登呂）

7・31 犬飼哲夫元会長死去
申請

8・2 日博協顕彰候補者の
申請

8・8 「89生涯学習フォー
ラム・インはっかいどう」
後援名義使用申請

8・19 平成元年度アイヌ文
化財専門職員研修会後援名
義使用申請

8・25 道博協大会補助金結
果報告書を道教委に提出

9・13・14 学芸職員研修会
穂別町で開催（渡邊会長、
野村事務局長出席）

アイヌ文化財専門職員
研修会開催要項

北海道の歴史と文化の理解
に欠かすことのできないアイ
ヌ文化を正しく認識し、伝承
するため、アイヌ文化財業務
に携わる専門職員の資質向上
と養成などを目的に研修会が
開かれます。本会も後援して
おります。

期日 10月25・27日
会場 札幌市交通局職員会
館「はるにれ荘」（札
幌市中央区南6西12、
電話〇一一一五六一一）

講師 貝沢正、大塚和義、
西本豊弘、中川裕、榎
森進、河野本道、岡田
路明、萱野志朗の各氏
講演 講義の内容および日
記によりお願い致します。

（会費）
団体会員 一五、〇〇〇円
個人会員 三、〇〇〇円
（取崩金融機関）
北海道拓殖銀行 新さっぽ
ろ支店 普通 〇一八六一二
八七〇〇〇
振替 小樽七二二九四一九

新入会員

〔団体会員〕 ヴェネツイ
ア美術館（小樽市堺町五番二
七号） 滝川市美術自然史館
（滝川市新町二丁目五番30）
〔個人会員〕 中村悟

山谷昌裕

加盟館の変更

（変更前）根室市有磯町二丁
目六番地、根室市文化センタ
ー、（変更後）根室市常盤町
二丁目二七番地、根室市博物
館開設準備室

退会会員

会費納入のお願い
平成元年度の会費の納入を左
記によりお願い致します。

（会費）
団体会員 一五、〇〇〇円
個人会員 三、〇〇〇円
（取崩金融機関）
北海道拓殖銀行 新さっぽ
ろ支店 普通 〇一八六一二
八七〇〇〇
振替 小樽七二二九四一九